

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

★最初のISS構成要素打上げから2251日経過しました。

★第10次長期滞在クルーのISS滞在は95日経過しました。

★ISS動向

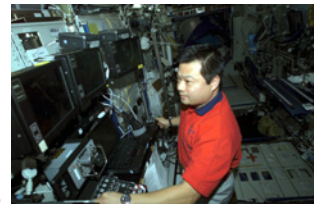
第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士は、ソフトウェアの更新、生医学実験、定期メンテナンスを主に行いました。

ソフトウェアの更新作業は週の大半をかけて行われ、ISSのコマンド及び制御コンピュータのプログラムが更新されました。ソフトウェアの更新はISSのコンピュータの運用性を向上させ、管制官の負荷も減少します。

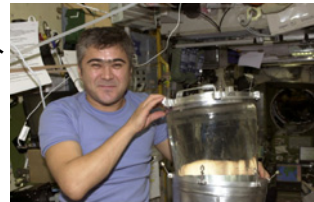
また、ふたりは心臓血管系の測定と、定期的に行われている身体検査を行いました。シャリポフ宇宙飛行士は、船外活動で使用する予定の装置の準備を始めました。船外活動は1月26日午後4時25分から4時間半にわたって行われる予定です。

エレクトロン(酸素発生装置)を含むISSの環境制御システムと生命維持システムは全て順調に稼働しています。

来月のプログレス補給船(17P)の到着に備えて、1月15日にプログレス補給船(16P)のスラストを使ってリブーストを行い、ISSの高度を約8.9km上昇させました。現在、高度およそ360kmを飛行しています。



ロボットアームのトレーニングを行うチャオ宇宙飛行士



水タンクを持つシャリポフ宇宙飛行士

“スペースシャトル飛行再開に向けて”

★スペースシャトル・ディスカバリー号準備状況

スペースシャトル・ディスカバリー号は、NASAケネディ宇宙センターで3月の射点への移動を目指してシステム試験が続けられています。

米国時間1月10日には最後の強化炭素複合材(RCC)パネル(No.6)が、ディスカバリー号の左翼前縁に取り付けられました。

新たに搭載されることになっているセンサ付き検査用延長ブーム(OBSS)は最終確認と試験のためにスペースシャトル組立棟(VAB)内のリモート・マニピュレータ・システム・ラボに設置されています。OBSSはオービタ整備施設(OPF)に移設され、来週にはディスカバリー号へ取り付けられる予定です。

全長約15mのOBSSはスペースシャトルのロボットアームに取り付け軌道上でカメラとレーザを使用して熱防護システムの点検を行う、飛行再開のための新しい安全対策のひとつです。

補助ロケットブースタ(SRB)の組み立て作業は完了し、現在、最終作業を続けています。



RCCパネルの取り付け前最終点検



最後のRCCパネルの取り付け



OBSSを視察する野口宇宙飛行士

“インフォメーション”

★STS-114ページリニューアル

野口宇宙飛行士搭乗のスペースシャトルミッションSTS-114を紹介するページを、見易さ、アクセスしやすさなどを考慮してリニューアルしました。ミッションの内容、訓練の様子など最新情報を提供します。

なお携帯サイトも同時オープンしました。URL: <http://sts-114.jaxa.jp/> (携帯サイトも同じアドレスです。)



携帯サイト

★宇宙と放射線医学講演会

放射線医学総合研究所は、放射線に関する一般講演会を開催します。

特別講演として若田宇宙飛行士による宇宙での生活について体験談や解説が行われます。

■日時: 2005年1月22日(土) 午後2時～午後5時15分

■場所: 日本未来科学館(東京・江東区)

■お申し込み: 独立行政法人 放射線医学総合研究所 広報室

TEL: 043-206-3026 FAX: 043-206-4062 E-Mail: kouen@nirs.go.jp

■申込締切: 定員になり次第締め切らせていただきます(定員: 300名、参加費: 無料)。

※プログラム等、詳細は以下をご覧ください。 <http://www.nirs.go.jp/newinfo/gyouji/050122.shtml>



若田宇宙飛行士

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメールリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。